

岡山大学 経済学会雑誌

第 49 巻 第 2 号

平野正樹 教授 和田淳三 准教授
中村良平 教授 新村 聡 教授
退 職 記 念 号

目 次

論 説

アダム・スミスの大きな政府論の形成過程に関する一考察

—『法学講義』から『国富論』への租税論の発展—……………新 村 聡 (1)

留学生支援ボランティア・WAWAによるチュータリングの現状と課題

—チューターに対するアンケート調査結果を踏まえて—

……………字 塚 万里子・廣 田 陽 子

岡 益 巳・深 田 博 己 (17)

研究ノート

職別工事業の技能労働者等における人事評価に関するアンケート調査の報告

……………井 上 朗 弘・松 田 陽 一 (35)

中国の計画経済時代における対外経済

—閉鎖経済下の自力更生，貿易，国際援助，インバウンドについて—

……………藤 鑑 (57)

公共部門の外部組織利用を通じた自己革新プロセスに関する予備的考察

……………藤 井 大 児 (75)

J. H. クラバム『近代イギリス経済史 第3巻 第4編 機械と国家間抗争

1887-1914年 付：エピローグ，1914-1929年』要綱，第4章……………一 ノ 瀬 篤 (83)

翻 訳

カール・カウツキー「オーストリアにおける諸民族集団の闘争と国法」

……………太 田 仁 樹 (109)

平野正樹教授略歴・研究業績…………… (125)

中村良平教授略歴・研究業績…………… (127)

新村聡教授略歴・研究業績…………… (136)



中村良平教授

平野正樹教授・和田淳三准教授のご退職に寄せて

平野正樹先生は、2001年4月（平成12年）に岡山大学経済学部に着任され、2018年3月までの17年間、教育と研究そして管理運営の各方面で、経済学部並びに大学院社会文化科学研究科の発展のために多大の貢献をされました。

平野先生はもともと役所（旧大蔵省や旧経済企画庁）や民間シンクタンク（現在の日本総合研究所等）に勤務されていたこともあり、財政問題や経済見通しに明るく、経済理論に裏付けされた経済財政政策は学生からの評判が高く、経済学部にとって貴重な人材でした。

ご専門は地方財政論で、近年は地方交付税や財政赤字が抱える諸問題に関する研究を進めてこられました。研究の成果を学会などで発表され、論文や著書などを精力的に著してこられました。先生の代表的な成果は『地方財政論－受益と負担関係明確化へのシナリオ－』（2002年）、「わが国の財政赤字 何が問題か」（2012年）ですが、その内容は学会や実業界で高く評価されています。また、幕末に備中松山藩（現在の高梁市）の財政を再建した山田方谷（1805～1887年）の研究者としても有名です。

教育面では平野先生は昼間及び夜間主コースの講義と演習を担当され、大学院博士前期・後期課程では地方財政論を開講されました。豊富な実務経験に裏付けられた知見は刺激に富み、勉学意欲の高い社会人入学の大学院生には特に好評でした。

管理運営面では入試委員長をはじめとする部局及び全学の委員会委員を多数引き受けてこられました。特に、副学部長、副研究科長そして学部長として経済学部並びに社会文化科学研究科の運営にご尽力していただきました。

研究面を通じた社会貢献である学会活動としては、日本財政学会や日本地方財政学会のほか、中四国商経学会の理事（ほぼ10年間）や山田方谷研究会代表を長く務められました。岡山県や市役所の委員会の委員長などの要職も多数引き受けられました。

多方面にわたって優れた能力を持っておられる平野先生が経済学部を去られてしまうのは誠に残念ですが、先生のご退職後のますますのご活躍を祈念して、ご紹介の辞とさせていただきます。

和田淳三先生は、1985年4月（昭和60年）に着任され、2018年3月までの33年間、教育と研究そして管理運営の各方面で、経済学部並びに大学院社会文化科学研究科の発展のために多大の貢献をされました。とりわけ、教育面では管理会計論や原価計算論などを開講され、公認会計士などを育てられました。

多方面にわたって優れた能力を持っておられる和田先生が経済学部を去られてしまうのは誠に残念ですが、先生のご退職後のますますのご活躍を祈念して、ご紹介の辞とさせていただきます。

2018年2月1日

経済学部副学部長 長 畑 秀 和

中村良平教授のご退職に寄せて

中村良平先生は、1988年（昭和63年）4月に着任され、2018年（平成30年）3月までの30年間、教育と研究そして管理運営の各方面で、経済学部並びに大学院社会文化科学研究科の発展のために多大の貢献をされました。

中村先生は、以下に示すように経済学部の教育・研究・社会貢献の面で、貴重な人材でした。

ご専門は都市・地域経済学、地域公共政策で、近年は市町村産業連関表の作成方法の開発と地域経済分析に関する研究を進めてられました。研究の成果を学会などで発表し、論文や著書などを精力的に著してられました。先生の初期における代表的な成果はAgglomeration Economies in Urban Manufacturing Industries, *Journal of Urban Economics*, 1985年ですが、その内容は多くの国際論文でも引用されており、都市集積の経済分析の新境地を切り開いた分析手法として国内外の学会で高く評価されています。また、今日では一般的な不動産価格形成指標であるヘドニックアプローチを我が国に最初に導入した一人でもあります。そして、最近では、これまでの特化係数に変わる新たな特化係数の指標を考案され、外国書物の1章として出版されているだけでなく、総務省統計局のホームページやYouTubeでも公開されており、地方創生に関する調査研究において学会、行政、シンクタンク等で広く使われています。

教育面では、中村先生は昼間及び夜間主コースの講義と演習を担当され、大学院博士前期・後期課程では都市経済政策、地域経済政策などを開講されました。これまで主査として博士論文を授与した学生が8名に及んでいます。現在、そのほとんどは国内外の大学で教鞭を執っています。先生の豊富な学識に裏付けられた知見は刺激に富み、勉学意欲の高い学部生だけでなく、社会人入学の大学院生にも特に好評でした。

管理運営面では教務委員長や入試委員長、学生生活委員長など部局及び全学の委員会委員を多数引き受けてられました。特に、2010～15年度の6年間は副学部長として経済学部並びに社会文化科学研究科の運営にご尽力していただきました。

研究面を通じた社会貢献である学会活動としては、応用地域学会会長やアジア不動産学会理事、日本経済研究所理事などを長く務められました。また、国、地方自治体の審議会や研究会等の委員長というなどの要職も多数引き受けられました。

多方面にわたって優れた能力を持っておられる中村先生が経済学부를去られてしまうのは誠に残念ですが、先生のご退職後のますますのご活躍を祈念して、ご紹介の辞とさせていただきます。

2018年2月1日

経済学部長 平 野 正 樹

新村聡教授のご退職に寄せて

新村聡先生は、1983年10月（昭和58年）に着任され、2018年3月までの34年6ヵ月間、教育と研究そして管理運営の各方面で、経済学部並びに大学院社会文化科学研究科の発展のために多大の貢献をされました。新村先生は、経済学部にとって貴重な人材でした。

ご専門は経済学史で、長くアダム・スミスに関する研究を進めてこられました。研究の成果を学会などで発表し、論文や著書などを精力的に著してこられました。先生の代表的な成果は『経済学の成立』（1994年）ですが、その内容は学会で高く評価されています。

教育面では新村先生は昼間及び夜間主コースの講義と演習を担当され、大学院博士前期・後期課程では経済学史、現代経済学史を開講されました。豊富な学識に裏付けられた知見は刺激に富み、勉学意欲の高い学部生だけでなく、社会人入学の大学院生にも特に好評でした。

管理運営面では、教務、入試委員長をはじめとする部局及び全学の委員会委員を多数引き受けてこれ、経済学部並びに社会文化科学研究科の運営にご尽力していただきました。

研究面を通じた社会貢献である学会活動としては、経済学史学会の幹事を長く務められました。

多方面にわたって優れた能力を持っておられる新村先生が経済学部を去られてしまうのは誠に残念ですが、先生のご退職後のますますのご活躍を祈念して、ご紹介の辞とさせていただきます。

2018年2月1日

経済学部長 平 野 正 樹